

第1回 豊岡市中学校部活動の在り方検討委員会

令和5年7月3日(月)

豊岡市役所 本庁舎3階 庁議室

豊岡市教育委員会・豊岡市文化・スポーツ振興課

報告事項1

学校部活動の地域移行に関する国の方針等について

部活動の位置づけ

- ◆ 学習指導要領総則(学校運営上の留意事項)において、「スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育がめざす資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として教育課程との関連が図られるよう留意すること」と規定されている。

課題

- ◆ 少子化により中学校生徒数の減少が加速し、学校単位では部員不足のためにチーム編成もままならず、現状の活動維持が困難な状況も見られる。
- ◆ 競技経験のない種目の指導や休日の指導・大会引率などが、教師にとって大きな業務負担となっている。
- ◆ 地域では、受け皿となるスポーツ団体や指導者等と学校との連携・協働が十分ではない。



持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要

め ざ す 姿

- ◆ 少子化の中でも、将来にわたって子どもたちがスポーツ・文化芸術に継続して親しむことができる機会を確保する。
- ◆ 自発的にスポーツ・文化芸術に取り組むことで、自己実現を図り、活力ある社会と絆の強い社会を創る。
- ◆ 部活動の意義を継承・発展させ、新しい価値を創造する。
- ◆ 地域の持続可能で多様なスポーツ・文化芸術を一体的に整備し、子どもたちの多様な体験機会を確保する。

方 向 性

- (1) 休日における地域連携や地域移行について、国は、令和5年度から令和7年度までを改革推進期間として支援していく。
- (2) 平日における地域連携や地域移行はできるところから取り組む。
- (3) 地域におけるスポーツ・文化芸術機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実等にも取り組む。
- (4) 地域のスポーツ・文化芸術団体等と学校との連携・協働を推進する。

県教委 学校体育担当者会(R5.5.16)での説明

- (1)県としても方向性を見いだせていない。国や他府県の情報を収集しているところ。
- (2)「部活動地域移行推進会議」を設置し、関係団体との推進調整、環境整備の在り方についての検討を行う。
- (3)地区ごと(但馬・丹波・淡路・播磨西・播磨東・阪神)に「連絡協議会」を開催し、地域の実情に応じた課題を共有する。
- (4)市町ごとに地域の実情に応じて、検討・取組を進めていただきたい。



豊岡市として、どのような方針で地域移行を進めるのか検討し、取組を進めなければならない。

報告事項2

豊岡市中学校部活動地域移行準備委員会での
協議について

項目	課題
指導者、受け皿の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導員を増やしていくのは一つの手段。いきなり地域にお願いすることは難しい。部活動指導員の経験者が増えるほど地域移行しやすくなる。 ・部活動指導員が教師とともに運営し、徐々に学校から離れていくのが現実的。 ・1/3ほどの教職員は部活動をしたいと思っているだろうが、兼職兼業の課題が出てくる。希望する教員が指導を続けられる環境を整えていくことが必要。
生徒に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・学校にない種目を続けたいという生徒も多い。原則全員入部という制度も含め、部活の在り方を考えていかなければならない。 ・全員入部ではないが、かなりの割合の生徒が所属している。地域移行になるとどれだけの生徒が活動するのだろうか。例えば、入学式の演奏を聴いて吹奏楽部に入部しようと思った生徒もいる。見学や仮入部のような仕組みがなければ、活動をする生徒がどんどん減るのではないか。生徒へのアンケートも必要。
練習場所に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・実質学校を使わないとやっていけない。近くに運動施設があるところはよいが、そのような地域は少ない。吹奏楽はどこかを拠点にしないと楽器の移動が難しくなる。 ・市内に吹奏楽団体が2～3つ出来て、その活動場所で今中学校が所有している楽器を団体が一括管理する。その活動場所に中学生が通う。このような仕組みができれば持続可能ではないか。

項目	課題
費用面	・保護者負担をどうするか。
志向に応じた対応	・チームを組んで大会に出ることが生徒、教員に根付いている。地域の中のスポーツ・文化サークル等に参加し、試合等には出ないことも同等だという意識が育っていかないと、スポーツ・文化に親しむことにならない。
クラブの設置形態	・生徒数が減り、小規模校が増えていくため、部活動指導員や合同部活動、拠点校方式などの方法もある。「ある種目はA中学校を拠点にし、そこに3～4校の生徒が集まる」ような形をつくり、そこに部活動指導員が入れば各校に1人ずつ配置する必要はない。 ・合同部活動も、中体連の規定では人数の足りないところ同士で組み、勝利至上主義にならないようにするためのルールであったが、このルールもなくなるだろう。自由にチームを組めるようになるので、クラブチームなども人集めをするかもしれない。学校は多様な形でやっていくしかない。ただ、いずれにしても、どこが中心になって進めるかが問題である。

項目	課題
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・平日(教員)と休日(外部指導者)と分けて実施することなど可能なのか。むしろ学校の業務量が増えてしまうのではないか。 ・事故が起こった時の責任の所在。今は教育活動の一環ということで保険適用となるし、何か事故が起こっても国が保証してくれる。地域移行となった時にだれが責任を取るのか。組織を整えて、指導者の質も維持しなければならない。スポーツであれば最低限、日本スポーツ資格協会の公認指導員を持ってもらうなどが考えられる。パワハラ、セクハラの問題もあり、慎重に進めなければいけない。 ・教員は、「部活を指導する・しない」の選択ができるようにならないといけない。そのためには、部活を学校が持っているに進まない。委員会の方針または学校の部活動運営方針の中に、地域にその種目のスポーツクラブができたら募集停止にすることを盛り込むなど、移行を自動的にしていくという考え方が必要。卓球ができそうだったらその校区の卓球部をなくす、バレーができればその校区のバレー部をなくすというように。 ・学校の業務改善のために部活動をはなすことによって、生徒が部活動をせずゲームばかりするというような結果になっていけない。

教職員へのアンケート結果

- (1) 対象 部活動担当者(顧問・副顧問) 159名
- (2) 期間 2023年2月20日～27日
- (3) 回答数 90名(顧問60名、副顧問30名)
- (4) 結果(主な質問)

① 部活動の指導に負担を感じているか	
負担である・少し負担である	74%
負担ではない・それほど負担ではない	26%
② 休日部活動の地域移行時の指導意向	
指導員をしたい・してもよい	31%
指導員をしない・できればしたくない	69%
③ 部活動を地域クラブ等が担うことについて	
賛成・どちらかといえば賛成	87%
反対・どちらかといえば反対	13%

協議事項1

学校部活動の地域連携・地域移行に向けた
本市の方向性について

R5年度 豊岡市中学校部活動一覧

【運動部】	豊岡南		豊岡北		港		城崎		竹野		日高東		日高西		出石		但東		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1 野球	○		○				○		○		○		○		○		○		8
2 ソフトボール				○								○							2
3 サッカー	○		○																2
4 ソフトテニス	○	○	○	○	○						○	○			○	○			9
5 バスケットボール	○	○	○	○			○	○			○				○	○			9
6 バレーボール		○	○	○		○	○		○	○		○		○	○		○	○	11
7 卓球	○	○	○	○									○	○	○	○	○	○	9
8 剣道	○		○						○	○		○			○		○	○	8
9 陸上	○		○								○				○				4
10 ボート							○												1
合計																			63

【文化部】	豊岡南		豊岡北		港		城崎		竹野		日高東		日高西		出石		但東		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
1 吹奏楽	○		○		○		○		○		○		○		○				8
2 合唱	○																		1
3 音楽																	○		1
4 家庭科	○		○																2
5 美術	○		○								○				○				4
6 科学	○																		1
7 広報情報				○															1
8 生活活動											○								1
9 コンピュータ															○				1
合計																			20

R5 中学校部活動指導員

運動部

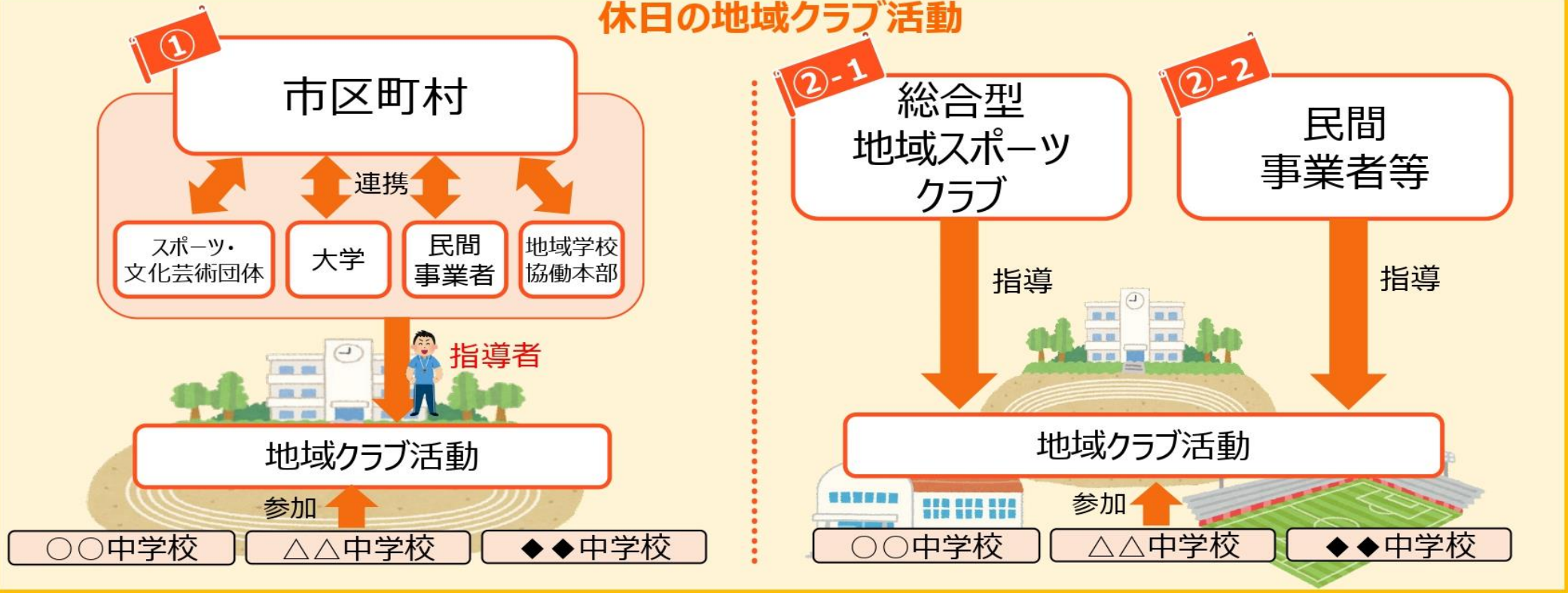
	学校	部活動	指導員
1	豊岡南中	女子バスケットボール部	特別支援教育支援員
2	城崎中	バレーボール部	特別支援教育支援員
3	日高東中	男子バレーボール部	教員OG
4	日高西中	卓球部	地域住民

文化部

	学校	部活動	指導員
1	豊岡南中	合唱部	ピアニスト
		吹奏楽部	教員OB

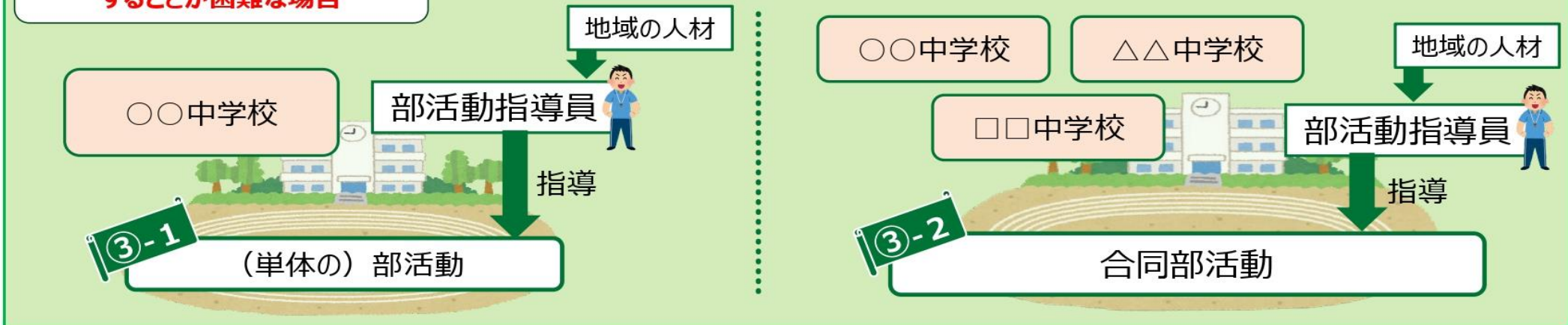
部活動指導員をどう確保していくか

休日の地域クラブ活動



学校部活動の地域連携

※直ちに①②のような体制を整備することが困難な場合



【段階1】各学校に部活動指導員を配置する
(学校部活動)



【段階2】指導員希望者が人材バンクに登録し、各学校に指導員を配置する
(地域部活動)



協議事項2

学校部活動の地域連携・地域移行に向けた
スケジュールについて

在り方検討委員会の今後のスケジュール

第1回 7月 現状報告 移行案の提示
スケジュール案の提示

第2回 9月 課題の整理と検討①

第3回 10月 課題の検討②

第4回 12月 移行案の決定

- 視点1 教員の働き方改革
- 2 地域指導者の確保
- 3 活動場所の確保
- 4 教員(顧問)以外による大会等への引率
- 5 教員(顧問)と地域指導者等の連携
- 6 地域指導者等への研修の実施
- 7 費用負担のあり方

今後のスケジュールについて

○国・県の動向に注視しながら検討を進めていく。

部活動地域移行スケジュール(案)

令和4年度

- ・ 関係課協議
- ・ 準備委員会開催
- ・ 教職員アンケート

令和5年度

- ・ 検討委員会開催
- ・ 市の方針決定
- ・ 事務局(人材バンク)設置準備

令和6年度

- ・ 事務局(人材バンク)運営開始
- ・ 休日の地域移行実施①(9月以降)
- ・ 課題収集、改善に向けた協議

令和7年度

- ・ 休日の地域移行先行実施②(4月より)
- ・ 課題収集、改善に向けた協議

令和8年度

- ・ 平日の地域移行に向けた協議開始